

# 生ける水の川々が流れ出る

「祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って叫んで言われた、『だれでも渴く者は、わたしに来て飲むがよい…その人の最も内なる所から、生ける水の川々が流れ出る』」(ヨハネによる福音書 第7章 37-38節)



なぜ人は何かを達成し、成功しても、むなしさと渴きを覚えるのでしょうか。それは「終わり」があるからです。人生におけるあらゆる達成と到達、成功は喜びと享受を伴う一種の「祭」です。しかし、この祭はどんなに楽しくても、やがて終わりの日が来ます。人が最高峰に到達した時、それは人の幸福が尽きる時です。希望の大学に入学し、苦勞したあげくようやく卒業しても、卒業式の喜びはたちまち消えてしまうものです。美しい結婚も始めのうちは楽しいものですが、この楽しみにもやはり終わりの日があります。円満な家庭にも死から来る終わりの日があり、最も盛んな事業にもやがて没落し、撤退する日があり、最も長生きの人にもこの世を離れる日があります。人生の喜びと楽しみが終わりに達するとき、人はたちまち渴きを覚えます。その喜びが大きければ大きいほど、深ければ深いほど、濃厚であればあるほど、その終わりの日の渴きの感覚はいっそう強く、重いものです。

ですから、人の真の必要は終わりがなく、永遠に流れて、人に喜びと楽しみを永遠にもたらすことができる「生ける水」です。ただ永遠の神だけがこのような生ける水です。そのため、神は肉体と成り、人として地上に来られました。この方が主イエス・キリストです。彼は神であり、また人です。彼は人として十字架につけられて、わたしたちの罪を取り除いただけでなく、神を生ける水として内側から流し出しました。彼は三日目に復活し、「命を与える霊」と成り、今日生ける水は命を与える霊を通して流れています。

主イエスを信じ受け入れることは、彼を命を与える霊として受け入れ、生ける水を飲むことです。生ける水は「最も内なる所」、すなわちわたしたちの霊の中に流れ込んで源泉となり、永遠に湧き上がって、わたしたちの内側のあらゆる部分を流れて渴きをいやし、また浸透します。わたしたちの人生は潤いのある豊かな人生に変わります。そればかりか、生ける水はわたしたちから流れ出て「生ける水の川々」となり、他の人々の渴きをいやし、他の人々の必要をも満たします。彼は今日もなお、わたしたちに向って叫んでおられます、「だれでも渴く者は、わたしに来て飲むがよい」。